



賛助会員・機関誌購読者のみなさま、および  
「3.11からの出発」活動基金にご寄付くださったみなさまへ

2013.1.20

## 「3.11からの出発」活動のご報告 No.8

松岡享子

### 音楽の贈りもの

あとは終業式を残すだけ、となった連休前の2012年12月21日、陸前高田市立小友小学校で、小さな音楽会が開かれました。アメリカ在住のヴァイオリニスト小田実穂さんが、ぜひにと希望して実現した番外の訪問でした。小田実穂さんは、東京子ども図書館の現在の建物が完成したとき、落成式にヴァイオリンを演奏してくれた方です。当時、松岡の自宅のお向かいにある音楽学生のためのマンションに住んでいて、同じマンションに住む他の音楽家とともに、「みしのたくかにと企画」というグループをつくって、東京子ども図書館で、一連の「子どものための音楽会」を企画・実行してくれました。その後、結婚してアメリカに渡り、現在はアーカンソー州に住んでいます。

小田さんは、以前、子どもたちに生の演奏を聞かせるプログラムで東北地方をまわった経験があり、このとき自分が訪れた場所が、今回の大震災の被災地になったことに心を痛め、現在住んでいる町でも復興支援コンサートを開いてきました。お正月に合わせて一時帰国する機会に、できたら被災地の子どもたちのところで演奏したいとのことで、上記小友小学校での演奏会が実現しました。

全校生徒74人が、音楽室に集まったの演奏会は大成功でした。初めてヴァイオリンを見た、聞いたという低学年の子どもたちもいて、小田さんの動きに合わせて、自分も手を動かしたり、からだをゆすったりしてたのしそうでした。ブラームスの「ハンガリー舞曲」では、子どもたちの間を歩きながらの演奏だったので、子どもたちは、文字通り耳のそばで演奏されるヴァイオリンの音色に魅了されたようでした。

プログラム4曲のうち、「ハンガリー舞曲」は、5年生がちょうど音楽の授業で習っているところだったとか。おまけにもう1曲の宮城道雄のお琴の曲「春の海」も、来学期の教科書にのっているのだそうで、5年生たちは、とくに大喜びでした。おしまいは、みんなでクリスマスの歌を（それも、英語で！）うたいましたが、子どもたちの声のきれいなこと、うたいかたの上手なことに感心しました。今回は、アーカンソー大学で日本語を教えている田中望美さんも同行され、学生さんたちが小友小学校の子どもたちへ宛てたビデオレターも披露されました。また、田中さんが用意してくださった「幸運のペニー銅貨」入りのキャンディのプレゼントまでついて、子どもたちには、思いがけない冬休みの前祝いになったのではないかと思います。

小田さんは、その後、12月26日に、東京子ども図書館でもコンサートをしてくれ、その収入と、アーカンソーでのチャリティコンサートの収益を合わせて、わたしたちの「3.11からの出発」活動資金に寄付してくださいました。アメリカ国内にも、ハリケーンなどの自然災害に加えて、銃乱射事件などがあり、日本の大震災支援を求めるのは、なかなか容易ではない状況だということですが、小田さんをはじめ、アメリカ在住の関係者から、今後も、わたしたちの「3.11からの出発」活動への支援をつづけたいというお申し出を受けており、ありがたいことだと思っています。



小友小学校では、翌週の終業式に、休み前に必ず贈ることにしている本——本人の希望した本——が、名前入りで、ひとりひとりに手渡されたことと思います。2013年の夏休みには、学校図書館の整備にも、チームを派遣してお手伝いをしたいと思い、学校側との話し合いにはいっております。

12月21日には、午前の音楽会のあと、午後「ちいさいうち」を訪ねました。まだ子どもたちの来ていない時間でしたが、(子どもたちが来れば、小田さんにミニミニ演奏会をしてもらえたのに、と残念でしたが!)、1年前に比べて、ここに入入りした人たちの体温による温かみ加わって、さらに居心地のいい空間になっていると感じました。季節の展示や、室内の飾りにも、吉田さんをはじめスタッフのみなさんの行き届いた心配りが見て取れて、うれしく思いました。お隣の、おとなのための図書館も、すでに開館されています。いつの日か、新しい市立図書館が再建されるまで、この小さな“きょうだい”図書館が、力を合わせてふんばりを見せてくれるように願っています。

活動資金を得る目的で刊行された『うれしいさん かなしいさん』は、おかげさまで初版を完売し、増刷のはこびとなりました。多くの方のご支援の賜物とありがたくお礼申し上げます。手ぬぐいのほうも、ひきつづき売れています。昨年11月にわたしが訪ねたストックホルムでも、日本人グループの方たちが、販売に協力してくださいました。活動資金の調達は、今後厳しくなることが予想されますが、頭をしぼってよいアイデアを生み出し、活動の継続をはかりたいと思います。

大震災直後の惨状、混乱は、収束に向かっています。1年半も被災当時のままにおかれていた中心部の市役所、体育館、図書館、博物館等の片付けもようやく行われました。新しいお店もふえています。しかし、こうした目に見えるところでの復興がすすめばすすむほど、問題は、深くなっていくのでしょうか。わたしたちのしていることが、実際にどれほど被災者の方たちの支えになっているのか、地域の復興に役立っているのか、を考えると、無力感が先にたちますが、目に見えないところで、どんなに小さなことでも、なにかが起っていると信じる気持ちをもちつづけていこうと思います。それに、地元の人ともっと親しくなり、なにが求められているかを、もっとよく知ることができるようにならなければと思います。その人たちと協力しながら、たえず活動の内容を吟味しつつ、長くつづけていくことが肝要だと感じています。

時間が経つにつれ、支援への思いがうすれていくなかで、昨年の年末には、横浜市にある保育園をはじめ、いくつかの団体、何人もの個人から、お心のこもったご寄付が寄せられました。ほんとうにありがたく、心より感謝申し上げます。長くつづけたいというわたしたちの願いを、今後も後押ししてくださいませようお願いします、ご報告といたします。

(2013年1月17日 松岡享子記)

公益財団法人 東京子ども図書館

〒165-0023 東京都中野区江原町1-19-10 Tel.03-3565-7711 Fax.03-3565-7712 URL <http://www.tcl.or.jp>

振込先 ゆうちょ銀行／郵便局 口座記号番号 00130-9-115393 加入者名 公益財団法人 東京子ども図書館